

令和4年9月17日

令和4年度 県民の環境活動支援事業

ちば里山カレッジ「拡げよう・つなげよう里山活動」実施報告書(4)

第4回「森林被害にどう立ち向かうか」

特定非営利活動法人ちば里山センター

題名	ちば里山カレッジ「拡げよう・つなげよう里山活動」 第4回「森林被害にどう立ち向かうか」 講義：「木を枯らす虫の話」 ～カシノナガキクイムシを中心に～ 講師：千葉県農林総合研究センター森林研究所 福原 一成氏 実習：「森林研究所構内の森から学ぶ」 ～これからの森づくりのヒント～ 講師：千葉県農林総合研究センター森林研究所 福島 成樹氏 まとめ・おしらせ
日時	令和4年9月17日(土) 10:00～16:00
会場	さんぶの森中央会館、千葉県農林総合研究センター森林研究所(山武市)
出席者	受講生10名(8市・1区)・講師3名 スタッフ1名
内容	10:00～12:00 講義：「木を枯らす虫の話」 ～カシノナガキクイムシを中心に～ 講師：千葉県農林総合研究センター森林研究所 福原 一成氏 (昼 食) 13:00分～15:30 実習：「森林研究所構内の森から学ぶ」 ～これからの森づくりのヒント～ 講師：千葉県農林総合研究センター森林研究所 福島 成樹氏 15:30～16:00 まとめ・おしらせ

実施概要	<p>里山カレッジ第4回を山武市さんぶの森中央会館と千葉県農林総合研究センター森林研究所で開催した。</p> <p>午前中はさんぶの森中央会館視聴覚室で「木を枯らす虫の話」について森林研究所福原一成上席研究員が講義した。いわゆるナラ枯れは千葉県内では2017年に鴨川市のマテバシイで確認されて以来、南から北上するように県内に広がった。ブナ科のコナラやマテバシイなどを中心とした樹種に特徴的で、夏季に常緑のマテバシイ、コナラが大量に枯死する。ブナ科の樹木にカシノナガキクイムシが穿入し、ナラ菌を媒介し、通水障害を起こした樹木は枯死に至る。こうしたナラ枯れをブナ科樹木萎凋病と呼んでいる。</p> <p>ナラ枯れは1990年代日本海側を中心に被害が拡大、2000年頃には、近畿、中部で発生し、2010年頃には東北から九州の全国に拡大したが、関東地方には被害が及ばなかった。しかし、この数年の間に千葉県を含め、関東地方すべての都県で発生したことが分かっている。</p> <p>カシノナガキクイムシの穿入防止や殺虫のため、殺菌剤の注入、フェロモントラップ、アタック防止トラップ、ラップ巻きなどが防除策として対策されているが、カシノナガキクイムシの防除は難しく、ナラ菌の増殖を抑える薬剤注入や大径木は伐倒して活用するなど、県内市町村には早めの対応をお願いしている。</p> <p>枯死木については、燻蒸処理で効果がみられることに加え、乾燥して薪に利用するなどにより虫の発生を抑えられることが分かってきたようだ。</p> <p>続いて、ウメやサクラを枯らすクビアカツヤカミキリは千葉県では発見されていないが、近県で被害が生じていることから、県内に注意喚起を呼び掛けている。</p> <p>防除法として、被害が生じた木をネットで巻き、成虫の脱出を防止するほか、クビアカツヤカミキリの生息が確認された木に薬剤を施用するなどがある。捕殺した成虫を買い取るなど、各地でクビアカツヤカミキリ撲滅への取り組みがされている。</p> <p>午後は福島成樹講師により、森林研究所構内の研究施設を視察見学した。サンプスギの見本林は一部伐採して、成長の度合いをはかる研究林となっていた。チップ一敷きと雑草の成長の関係などの研究が行われていた。スギの精英樹とサンプスギの成長度合いの比較、花粉量の予測のためヒノキのオバナの回収、シロスジカミキリに食害されて枯死したコナラ、作業効率を上げる工夫としてクロマツのコンテナ苗など並んでいた。</p> <p>受講生からは構内がエリア分けされ、研究空間になっていることに感心した。視察見学が楽しかったと印象を語っていた。</p>
------	---

添付資料（写真）



福原講師



カシノナガキクイムシ食痕



非赤枯性溝腐病にかかったスギ



スギ見本林



スギの成長実証実験



スギを皆伐した後



大風による中折れしたマツ（ダイオウショウ）



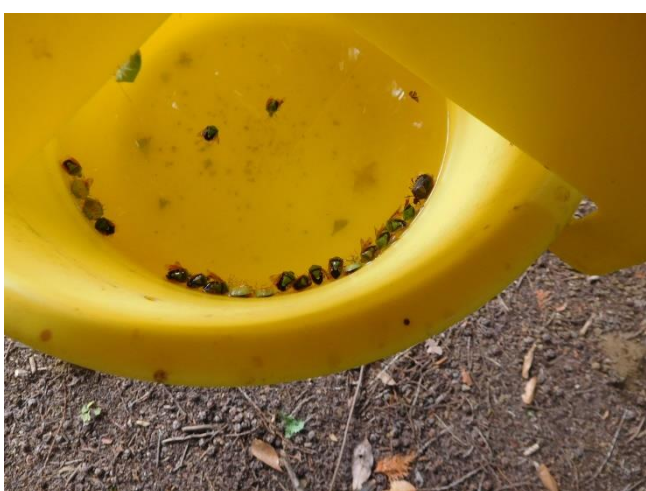
スギの精英樹



シロスジカミキリによる枯死したコナラ



ヒノキとつくり病を説明する福島講師



ヒノキに集まったカメムシ捕獲状況



コンテナ苗の紹介